

京都探究ワーク 歴史 ③



とよみ ひでよし 豊臣秀吉の都市改造について学ぼう。

織田信長の死後、^{はけん}覇権争いを制した豊臣秀吉は、朝廷から関白に任じられ、1590(天正18)年に天下統一を果たす中で、京都の都市改造を行いました。平安京の条坊制を残しつつ、さまざまな政策を行い、現代まで続く京都の都市基盤を整えました。秀吉の都市改造政策に関する下記の文章を読んで、設問に答えよう。



約11年にわたる (ア) で荒れ果てた京都のまちを復活させるため、豊臣秀吉は京都の都市改造に着手しました。

まず、関白になった翌年の1586(天正14)年に、秀吉の邸宅であり政治の中核となる城郭として、「^{じゅらくてい}聚楽第」の建設に着手。諸大名に命じて短期間で造営しました(着工翌年に完成)。この城郭ふ^{じゅらくだい}う邸宅には、(イ) が多用され、東西約600m、南北約700mの敷地に、本丸や南二の丸・西の丸などを配置し、周囲には堀と石垣を巡らせました。さらにその周辺に武家屋敷を配置し、配下の武士を住ませました。

また秀吉は、①「^{てんしょうちわり}天正地割」と呼ばれる新しい区画で京都の町割りを整備するとともに、天下統一の翌年には都を外敵から守る防壁として、さらには鴨川^{はんらん}の氾濫から守る堤防として「^{おどい}御土居」を築きました。御土居の内側と外側を区別して「^{らくちゅう}洛中」と「^{らくがい}洛外」と呼ぶようになり、交通と物流については「京の七口」と称される出入口を設けて要所としました。

そのほか、市街地に散在していた寺院を移動させて寺町^{てらまち}に集めるなど、秀吉は京都のまちを大々的に改造する事業を行いました。その痕跡^{こんせき}は今も街並みや地名などに見られます。

(設問1) 上の文章の(ア)と(イ)について、それぞれ当てはまる用語を選んで丸を付けよう。

- (ア) 保元の乱 承久の乱 応仁の乱 本能寺の変 (イ) 刀剣 漆 鶯張り 金箔瓦

秀吉は派手好きだったといわれ、黄金の茶室も作りました。

(設問2) 下線①に関連して、秀吉が京都の都市改造を行う以前と以後の町割り(区画)について、その様子を表した下のA・B・Cの図を、時代の古い順に並べよう。

! Hint 平安京の区画が次第に崩れて土地利用が非効率的になっていた状態を、秀吉が土地の有効利用を図りました。

